

## レタス施肥法の改善

香西清弘・平木孝典

レタスの施肥法改善の参考にするため,施用した肥料が異なる条件下でレタスを栽培し,肥料成分の吸収パターンを調査した。また,レタス栽培跡地土壌中の無機態窒素及び栽培期間中の深層土壌溶液中の硝酸態窒素濃度も測定した。

1. 定植から収穫期までのレタスによる肥料成分吸収量は,窒素 55~90kg ha<sup>-1</sup>,リン 10~13kg ha<sup>-1</sup>,カリウム 140~195kg ha<sup>-1</sup> であり,土壌からの肥料成分の供給を考えない場合の施肥効率は,肥料施用量に対して,窒素 25%,リン 10%,カリウム 80%であった。

2. レタス栽培跡地土壌中には,施用した肥料の窒素成分の 60%程度が残存していた。また,栽培期間中に地下へ溶脱する窒素肥料成分は,ほとんど認められなかった。

3. 硝化抑制剤入り肥料や有機質肥料を用いて施肥窒素量を 2 割削減することにより,レタス栽培跡地土壌中の硝酸態窒素濃度は減少したが,レタスの生育,収量はほぼ同等であった。

キーワード:肥料吸収量,硝酸態窒素,土壌溶液,レタス